

ESSENTIAL

Model : Akari

Photo by @akisancarema

05

APRIL 2022

エッセンシャル
人生に欠かせないもの

大事なのは
瞬間の感性

編集者のつぶやき

InterviewFile vol.05

デザイナー日記

変化する価値観

大事なのはフィーリング

新たな気持ちで。

FREE MAGAZINE

Created by designoffice CLIP 2022.05.15





ESSENTIAL



編集者のつぶやき

変化する価値観

会社を初めて半年が経過した。どこで何がきっかけだったかは覚えていないが、2年前東京へ単身赴任をしていたときに、名古屋に戻る辞令が出たときふと何かがよぎったことだけは覚えている。その瞬間思い立ったかのように、仲の良い友人を呼びだして、自分が考えている構想を思い切って話した。友人は“お前ならできると思うよ”、って背中を押してくれた。不確定要素ばかりの構想に、自信が付いた瞬間だったことだけは間違いない。大学時代にDJにのめり込んだことから、自分の人生は大きく変わった。もっと言えば、大学進学の際に、地元を離れると決断したことが大きな分岐点だったかもしれない。いつも決断を迫られる瞬間は唐突だったりする。それくらい進路を決定することは大事なポイントだろう。その一大事に関わる仕事に従事している方は、それだけ責任は重いという事を理解するべきだ。DJをしていたときは、人生で最も努力をしていた気がする。たくさん横柄な態度もしていただろうし、人がついては離れの繰り返しだった。当時付き合っていた人には、心底お礼を言いたい。ありがとう。

大人になって価値観が多様したからといって、これがなくなるわけじゃない。誰しもが失敗した過去や思い出しなくなることもあるだろうが、どんなになくなくても消えない。むしろ、しっかりと向き合うべきだと思っている。それがどれほど怖いことなのかも理解しているが、そこに蓋をしている限りは、先に進めないこともたくさんあるだろう。そんな人の背中を押してあげられる自分でいたいとは今思っている。キラキラした世界、華やかな世界に憧れた少年は、本当に頑張っていたと思う。

それを理解してくれた人は、今でも自分のそばにいてくれた人だろう。そして、2年前、大きな目標を掲げたときに、応援してくれたのも、酸いも甘いも見てきた友人だった。名古屋に戻ってすぐに、ひとりの後輩に連絡をした。食事に誘い、自分のプランを相談した。世間はパンデミックに最初の緊急事態宣言と、驚くほど世の中は静まり返って、自分の仕事はどうなるのかと不安そうだった。それが影響してか、数ヶ月、自分の構想に力を貸してくれた。当然、まだまだ綺麗に絵を書くことすらできない当時は、後輩の力を最大限に活用しきれないまま、数ヶ月後、チームは解散したのが現実。その時、やっぱり起業やめようかな、自分にはサラリーマンが向いているんだろうなとつくづく思った。そんなこんなしているときに、妻の妊娠が発覚した。喜びと同時に不安も募り、もっと頑張ろうと心に誓った。その時から、もう1年が経過した。あまりにも早すぎる時の流れに、自分を見失いそうになった。何度も失敗を経験をしたけど、それでも最後に新しい家族の誕生をきっかけにこうして起業することができたことに、応援してくれている家族や友人、関わってくれている各企業の方々には心から感謝している。この1年近くでたくさんの変化があったが、1番は価値観だと思う。きっとこれからもっと色々な経験をして、価値観は変わっていくような気がする。物に対する価値観、働くということに対する価値観、人との付き合い方の価値観、色々な部分において大きく変化した1年だった。そこには子どもの存在が大きかったのも理由の1つだ。今はスタッフも加わり、家族に会社と守るのものが増えた以上、努力以上に結果を求められる。価値観が変わって当然と思う中で、大切な物を守るようにがんばりたい。

語る、過去と今と未来

Interview File vol.005

このインタビューファイルでは、デザインオフィスクリップが気になった人をピックアップ。主に起業家、クリエイター、フリーランスなど、多ジャンルの中から様々な形で活躍する方を取材。“過去”“今”“未来”のフェーズ毎に、パーソナルな部分を深堀り。

what's ESSENTIAL

瞬間の感性

今回は、富山を中心に北陸で活躍する DJ ASH さん。幼少期から音楽が好きでずっと音楽を楽しんできた ASH。そんな地方の DJ がコロナ禍で挑戦する次のキャリアとは何か？

山口 新(DJ ASH) / Yamaguchi Arata

中学生にバンド活動、高校生では合唱部と音楽に携わる。

その後、クラブミュージックに出会い、クラブに遊びに行くようになったことがきっかけで、クラブイベントに携わるようになり、2013年自身のDJキャリアをスタートした。国内外のゲストとも共演し、スキルとキャリア積み重ねる。



山口新 (DJ ASH) / Yamaguchi Arata

川本：自己紹介をお願いします。

山口：自己紹介で北陸の富山を拠点にハウスやエレクトロなどのジャンルでDJ活動をしているDJASH(アッシュ)です。宜しくお願いします。

川本：DJを始めたきっかけを教えてください。

山口：最初のきっかけは金沢のクラブに遊びに行ったことですね。学生時代から音楽が大好きで、社会人になって友達と金沢のクラブに遊びに行きました。その時に、たまたま富山でDJをしていた方に声をかけてもらい、富山のクラブにも遊びに行くようになったのがきっかけでした。

川本：お客さんから演者というきっかけだったんですね。よくあることなんでしょうか。

山口：そうですね…。当然音楽好き、イベント好きな人が来るものなので、良くある話に思いますね。ライブイベントに行くとバンドマンに憧れるようなもので、同じ感覚だと思います。

川本：確かにそうですね。テレビに映るタレントやアーティストに憧れるように、クラブやライブハウスだとダイレクトにその感動が伝わりそうですね。

山口：クラブは社交の場でもあり、少し音楽だけの場所とは違うところもありますが、それがゆえによりかっこよく見えることもあると思いますよ。

川本：キャリアはどれくらいになりますか？

山口：2013年3月です。イベントもはっきり覚えていて、先輩たちが長年やってこられたイベントのオープニングだったんですけど、まだお客さんの入りもほとんどなく、先輩たちばかりだったのですが、逆にそれが物凄く緊張しました(笑)お客さんに見られるより、知ってる人に見られる方が、よっぽど緊張しますね。

川本：ご自身のキャリアの中で思い出に残っているパーティーはありますか？

山口：なかなか難しいですが、思い出に残っているという意味では、さっきのスタートした最初のイベントもそうですし、あとは、今では日本のトップDJとなったYAMATOさんが来てくれたイベントが思い出深いですね。YAMATOさんは北陸初というもあり、かなり盛り上がりましてし、プレイにも釘付けになり、独特のスクラッチ技法は、すぐにマネした覚えがあります。なかなかできなかったんですけどね(笑)

川本：ありがとうございます。ここから少し幼少期のお話なんですけど、先ほど昔から音楽が好きとありましたが、学生時代は何をされていたんですか？

山口：中学生に上がったころは、コピーバンドをやっていました。音楽が好きな人なら誰もが通る道と同じですよ。王道といえば王道ですよ。担当はヴォーカルでした。歌には結構自信があって、そのせいか高校では合唱部に入りました。

川本：高校時代は合唱部っていうのは珍しいですね。

山口：そうですね(笑)本当は軽音楽部に入りたかったんですけどね…ま、色々上下関係もあって、合唱部になりました(笑)実はその時に音楽の先生が誘ってくれたのがきっかけだったんですよ。なんか、拾ってくれたとか誘ってくれたのもあってか、結構頑張っていましたよ。県大会や地区大会、定期演奏会ではミュージカルにも挑戦し、県大会では3年連続で金賞を受賞し地区大会に出場と結構頑張りました。

川本：そうなんですね!意外でした(笑)本当に音楽が大好きなんですね。もしかして、そのままそっちの道へ…なんて選択肢もあったんですか?

山口：その道とかは考えてなかったんですけど、もうこの頃から音楽はずっと何か携わっていたなとは思っていました。実際にやってたのは合唱なので、それについては声変わりがきっかけで辞めていきました。あくまでも部活動という内容でしたし。それが変わって今はDJをずっと続けているっていう感じですね。

川本：なるほど、そういう経緯があったんですね。それだけジャンルレスで音楽が大好きだったんですね。何かご家族もそういうお仕事だったりするんですか?身近に影響なのどか関係しているのかと…。

山口：いや、全然そんなことないです(笑)どうしてこんなにも興味を持ったのか分からないですが、今みたいにネットもまだだったので自分でも不思議です。強いて言えば、姉の旦那さんがダンスをやられていたり、いまではMPCプレイヤーだったり音楽に携わっています。

川本：ここからは現在9年目のキャリアを迎えて、思う事などをお伺いしたいのですが、些細なきっかけから始められたDJですが、辞めたいと思うことはなかったのですか?

山口：たまに聞かれるんですが、ほとんどないですね。1度だけ本当に色々考えた時がありましたが、後にも先にもその1回だけです。その程度です。結局DJがカッコいいし、好きだし、音楽が好きで、そのカルチャーが好きというのが影響しているんで、音楽を楽しむことはずっとしてきたいですね。もちろん、趣味嗜好は変わる気はしますが、できる限りこれからもDJは続けたいですね。もちろん、妻や子どももいるので、迷惑をかけない程度には思っていますが(笑)

川本：今の富山のハウスシーン・クラブシーンについて教えてください。

山口：富山だからというのは、あまりないと思いますよ。むしろ、東京・大阪・名古屋とかの首都圏の方がオリジナル発信してるなって思います。TVでヒップホップが表面化したみたいに、富山でもヒップホップの熱は暑いですよ。もちろん大先輩のDJも多いので、盛り上げや技術は本当に見習うことも多いです。それと引き換え、ハウスやテクノは、若手がめっきり減りましたね。2013・14年頃だとEDMが世界的にやはり、同時に機材もグレードアップしてきて、機材も手軽になったことで誰でもDJ!って言えた気がしました。別に悪いとも思わないけど、やっぱり入口が広すぎると、残る人も少ないのは寂しいですね。「パリピ」なんて言葉もあってか、クラブも盛り上がっていましたが、今はハウスのイベント自体も少なくて寂しいですね。



川本：現在も富山を拠点に活動されていますが、ローカルDJとしての想いというのはありますか？

山口：売りたいって気持ちは最初はすごく強く、コンテストなどにも出場しましたが、歳を重ねるごとにイベントに遊びにきてくれた皆さんが一体になって楽しんでもらえるような空間づくりを出来ればと思い、自分を必要とされているクラブなどの現場があればプレイしていきたいなと思います。どこに行ってもずっとフロアを沸かせられるプレイが出来るパーティーロッカーって言うよりも、フロアの盛り上がり火をつけるようなプレイが自分に合ってるかなと思います。

川本：ありがとうございます。そんなDJASHさんが見る、次の目標があれば教えてください。

山口：今は6月に向けて自身初のミックスアルバムを作っています。今まで無料でイベントやSNSで発信してきましたが、自分にとっては初となるアルバムなので、少しでも多くの人に聞いてみて欲しいと思います。

川本：アルバム発売を控えているんですね。どんな内容なんですか？

山口：基本はハウスを中心にまとめています。ハウスという音楽を知らない人でも聞きやすいように意識していますし、クラブに慣れている人、DJの人にも気に入ってもらえるような内容になる1枚に仕上がるように頑張っています。かなり自信作というか、長いこと聞いてもらえる1枚になると思います。ハウス全快でモード観もだしたいし、なかなか難しいところですが、欲張りすぎても…というところで調整中ですね。

川本：それは楽しみですね。ありがとうございます。このタイミングでの発売には、何か意味があったんでしょうか。

山口：特に意味はありません。たまたま声をかけてもらったのが今だったというだけです。中学でバンド始めた時も、高校で合唱を始めたのも、DJを始めたきっかけも、誘ってもらったことが大きなきっかけとなっています。いろんな偶然の縁があってこうして形になっていることは、ありがたいと思っています。今やこの2年間エンタメは、本当に瀕死の状態だったで、今も決断していいとは言えないと思います。好きなクラブがなくなるのは辛いし、寂しいことです。でも、代わりにSNSで配信することで、いろんな人がみてくれたり聞いてくれたりして、クラブに行かない人もクラブの音楽を聞いてくれたりして、それはいいことだったなと思っています。自分も少しでも知らない人にアルバムを届けられればと思って、今回受けました。いろんな思いが詰まっていることもありますが、ぜひ多くの人に聞いて欲しいと思っています。特に、全国のイベントオーガナイザーのみなさんも聞いてもらって、現場に呼んで欲しいと思います。待ってます！

川本：ありがとうございます。熱い思いが聞けて嬉しいです。コロナ禍で疲弊したエンタメ業界が、少しでも盛り上がりたて欲しいと思います。そんなアルバム発売を控えているDJ ASHさんがお薦めする2022年注目しているDJを教えてください。

山口：注目…本当に世界各国たくさん素敵なDJがいるのでこの人！というのは本当に選びにくいですが、世界でいえばD.O.DやRoss Couchはカッコいいですね。最近はかなり聞いています。国内と言っていいのか、日本人で言えば、NORIIさん、あとは、Addiyさんはカッコいいです。お二人とも楽曲はもちろんカッコいいし、プレイも本当にかっこいいです。クラブに行ける人は、ぜひ生でそのプレイを体験して欲しいです。

川本：ありがとうございます。最後に全員にお伺いしているのですが、DJ ASHさんにとって、エッセンシャル(人生に欠かせないもの)を教えてください。



山口：この質問は結構悩んだんですが、フィーリングですね。かっこよく言えば、瞬間の感性というか、そんな感じです(笑)DJもそうですが、もちろん理屈で考える時もあります。DJも1つのカルチャーで、例えばDJだけがカッコよくても意味がなくて、デコレーション、VJ、ライティングとかそういうもの全て合わさってかっこよくなるんですよ。でもそれって、その瞬間にしか現れないものであって、それを体験した時、あ〜かっこいいなって思います。それって言葉になかなか表せないものなんですよ。だから大事にしていることと言えば、フィーリングなのかな、って思います。その都度、かっこいい、いいなって思うものをこれからも選んで行きたいと思います。

川本：唐突に突きつけられたコロナ禍での自粛生活でしたが、始まって以来、ずっと飲食店のように肩身の狭い思いをしてきたと思います。ライブハウス、クラブハウスも次々と閉鎖しては、思い出の場所がなくなったりと寂しい思いが続きました。ようやく世界に兆しが見えてきたこの夏、DJASHさんにも頑張ってもらいたいと思います。ご活躍楽しみにしています。今日は、ありがとうございました。



山口 新 (DJ ASH)

DJ / HOUSE , TECHNO , DUB , DnB etc

 @Aristo9392B33  dj_ash0302



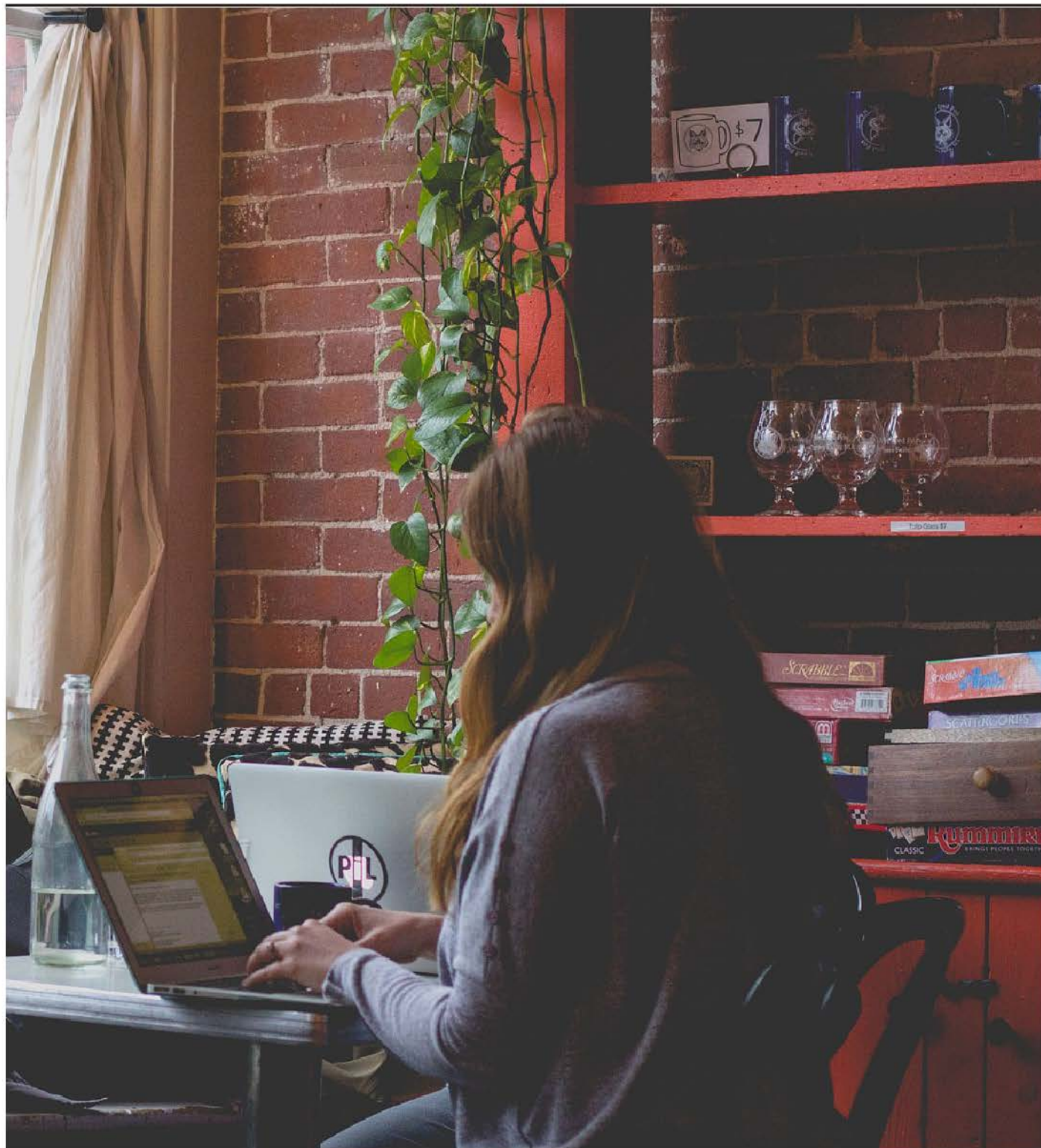


デザインオフィスクリップのデザイナーによる
日々奮闘の様子を綴ります。

は じめましてはじめて！！今回『デザイナーダイアリー』
を担当させていただきます南嶋愛です。この度デザインオ
フィスクリップのスタッフとして仲間入りしました。愛読者の方々、
スタッフ関係者の方々、以後よろしくお願いたします。

さ て！初めての掲載です。何を書きましょうか？悩んだあげく、
皆さまに知ってもらうために私のことを少しお話ししよう
と思います。私にはとても苦手なものがあるのです。それは、『文章を
書く』ことです。学生の時苦戦していたのも読書感想文や論文といっ
た文章です。文章を読むのは嫌いではありませんが、読解力と文章

力はある意味でお手のものです。ですので読書感想文といった作文
は大袈裟に表現すると血の気が引くほど苦手なのです。添削となれ
ば赤ペンでぎっしり。他の人がどのように文章を書いているのか学ぶ
ためにもっと本を読んで文章に触れるべきでしたね。過去に戻れた
ら子供の自分に読書をする週間を付けるよう指導したい。何が言
いたいかといいますと文章を読む書くのは大事なことだと言うこと
です。そして、私のこの掲載を温かい目で見えて欲しいと言うこと
です。これまでの方のように素敵なお話ができるとは思えません。デザ
インに関してもオタクのように語れることはできません。「何言っ



るんだ。笑」と思って笑いながら読んでくださると幸いです。しかし、少しでも楽しんで読んでもらえるよう努めてまいりますのでよろしくお願いします！


好 きなことも伝えなきゃですね。のめり込むほどの趣味はないです。音楽は洋楽・邦楽・クラシックなんでも聴く、アニメも見ると漫画や書籍も読む。画家や漫画家の作品を鑑賞するのも好きですね。今流行りのDIYや手芸と言ったハンドメイドも小さい頃から好です。インドアかと思いきや外の遊びやスポーツなどアウトドアも大好きですね。広く浅くいろんなことをしています！


そ そんな中、ここ数年熱中したのは『デザイン』と『プログラミング』でした。コロナの影響で外出が制限された際、何か新しく勉強したいと思い趣味で始めた。白紙のゼロの状態からバナーやチラシなどデザインを削り上げる楽しさ、コーディングするとサイトに反映される感激で、のめり込んでしまいました。もちろん途中で挫折をしかけたことは何度もある。この仕事はアートではない。見た目も大事だが見る人に伝えることを第一に意識しなければいけない。一生の課題だと思う。世にいる同業者から知識を吸収し、皆さんにより良いものを提供できるよう精進していきます！！



思い出の瞬間を イラストに残しませんか？

イベント情報など各種 SNS をチェックしてください。

 @takai_kenshiro

 takai_kenshiro

LINE 公式アカウント▶



イラストレーター
Illustrator

タカイ ケンシロウ
Takai Kenshiro

兵庫、富山を中心に活動するイラストレーター。

